

科目名	専門演習Ⅲ Seminar III							
科目担当者	青木 誠弘 AOKI Nobuhiro							
単位数	4	配当年次	4年	授業形態	演習	開講学期	通年	
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修○					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	3年間の専門演習（専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅲ）を通じて、憲法や法律に関する問題点について自ら調べ、考察し、論述できるようになる事を目指す。 専門演習Ⅲでは、その最終段階として、卒業論文の執筆を行う。							
授業の到達目標	①課題を設定する能力を身に着けること。 ②資料を収集し、読解し、情報を整理する能力を身に着けること。 ③自身の見解を人に伝達する能力を、実際に論文を執筆できる段階にまで高めること。							
授業計画・内容	1	初回打ち合わせ	16	後期打ち合わせ	2	前年度の学習内容の振り返り	17	論文指導・第3稿① 相互評価
	3	卒業論文題目決定	18	論文指導・第3稿② 討論	4	資料収集方法、引用方法の確認	19	論文指導・第3稿③ 討論内容の反映
	5	論文の計画作り	20	論文指導・第3稿④ 校正	6	論文指導・初稿① 全体の構成と確認	21	中間発表②
	7	論文指導・初稿② 序論執筆と確認	22	中間発表③	8	論文指導・初稿③ 本論執筆と確認	23	論文指導・第4稿① 中間発表を振り返って
	9	論文指導・初稿④ 結論執筆と確認	24	論文指導・第4稿② 調査	10	中間発表①	25	論文指導・第4稿③ 内容の反映
	11	論文指導・第2稿① 構成の見直し	26	論文指導・第4稿④ 文章のチェック	12	論文指導・第2稿② 本論の見直し	27	仕上げ
	13	論文指導・第2稿③ 本論のブラッシュアップ	28	裁判所見学	14	論文指導・第2稿④ 序論と結論の見直し	29	施設見学
	15	前期のまとめ	30	まとめ				
授業外学修 (事前学修)	授業時間では論文執筆のアドバイスをするので、そのアドバイスができるよう、前もってある程度の文章を作成したり資料を集めたりすること（年間60時間程度）。							
授業外学修 (事後学修)	授業時に聞いたアドバイスを活かして、自身の論文を執筆すること（年間60時間程度）。							
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応		
	・卒業論文の内容				100%	①、②、③		
成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合							
教科書	指定しない。各自が、論文執筆に必要な資料を準備すること。							
参考文献	長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ』（第7版）有斐閣 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅱ』（第7版）有斐閣							
その他	論文執筆という作業の性質上、学生ごとの個別指導になることも多い。上記のスケジュールに囚われず、メールやゼミ以外の時間での面談も活用し、柔軟に作業を進めること。							